

是等従業員、向に登壇は秋の岡民として共に喜ぶべきところなり。然るに、団体力から
以て爲すに於ては、一面重大の時、會社及び工場が破滅を向ふ下、常に如何なる時か、其目
的の違つて、過信し他を信する。余亦たきは誠に一國産業を爲す意、亦たるを得たり
處なり。

吾が工場に於ては過去に於て困つたる事一面に止る下、而も近時其風漸に益々甚しく
遂に今回、争議に勃発するに至りたる最大原因なりと信す。

経 過

大正十三年五月

十五日 午前十時 電気工場職工吉田清造氏、山内新造氏、矢葺正信氏、同工場事務

所、同工場技師 岡村 清氏を尋ね、

吉田氏 岡村さん貴殿、御赴任早々申業申す、お願ひありませうが、吾々電気工場員一

同から由り居ります、昇給する者は度々とも無い。且一回の昇給ありませう、生活
に困ります。是れは、貴殿の差支に次第でありませう、宜敷御願ひ致します。

岡村氏 君達は今迄不公平とか何とか不平を云ふて居るが、今迄だんぜん何事もあつた、

君達も知つて居ると思ふが、近々の内に昇給もある筈だが、僕としては公平に良く働く人
と、家族が多くて困る筈がある様に思ふが、家族が少く給料の安い人、少く上げてやり
たいと思つて居るから、君達では嘆願書が知らんが、僕は参考書として見て置く。

吉田氏 参考書としてでは困ります、貴殿の手に置いた儘で握り潰されては困ります。

岡村氏 握り潰しはしない、此中にはどんな事が書いてあるか知らんが、僕も参考書として會社の爲りに
でもなる事なれば、何とかし様、危に角預つて置く。

吉田氏 兎も角今迄の電気工場はうるさい處でありまして、實際御赴任早々の貴殿に對しては申

譯がありませんが、悪しかり、御願致します。

岡村氏 よろしい、本日もし急げず仕事をしてくれ、是れも言ふ事があれば、嘆願書見た様な

りを出さんで、僕も言ふて来給へ、僕が得心の行く様に話すから、兎も角こんな事を
言ふて居るは仕事にならんから、皆仕事をし給へ。

吉田氏 矢葺氏 私共は困つて居ります、宜敷御願ひします。